

教育内容	統合分野 在宅看護論	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	在宅看護概論	単位 1単位	療養生活を地域で支えるしくみを関連法規や諸制度、関係職種と多職種間の連携・協働の実際から学び、在宅看護の機能と役割を理解する。		
担当講師	西山 玲子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	1	生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う			
	2	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う			
	3	人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う			
	4	保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う			
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	在宅看護の目的と特徴	社会に変化と地域包括ケアシステム 社会の変化と在宅看護のニーズ	講義	基礎分野 マネジメント論 文化社会学
	2		地域の医療ニーズと地域連携システム 在宅看護における看護師の役割と機能		
	3	在宅看護の制度	訪問看護制度の歴史・変遷	講義・演習	専門基礎分野 保健医療論 社会福祉Ⅰ 社会福祉Ⅱ 関係法規Ⅰ 関係法規Ⅱ
	4		社会保障制度と医療・介護保険		
	5		ケアマネジメントの機能 訪問看護制度		
	6	在宅看護の対象者	対象者の特徴 年齢・主傷病	講義	専門分野Ⅰ 看護学概論
	7		生活を捉える 日常生活自立度 ADL・IADL 在宅看護の対象としての家族 システム理論を用いた家族の捉え方		
	8	他職種との連携と協働	他職種・他機関	講義	専門分野Ⅱ 成人看護学概論 老年看護学概論
	9		医療機関との連携 入院時の連携		
	10		在宅看護における保健医療福祉チーム		
	11	居宅介護サービス計画(ケアプラン)	介護保険制度におけるケアマネジメント	講義  演習	統合分野 災害看護 医療安全
	12	演習	ケアマネジメントの機能		
	13		事例を用いたケアプラン演習		
	14				
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会				

教育内容	統合分野 在宅看護論	時期 2年次	科目のねらい					
授業科目	在宅援助論 I	単位 1単位	在宅看護に必要な援助技術を学ぶ					
担当講師	寺崎 玲子 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間						
教育目標	1 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う							
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う							
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う							
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目			
	1	在宅看護を展開する技術	信頼関係の構築	講義	基礎分野 心理学 人間関係論			
	2		コミュニケーション 情報の分析					
	3	在宅で求められる看護技術の応用	呼吸機能に関する在宅看護技術	講義	専門基礎分野  専門分野 I 看護学概論 看護援助技術 II 看護援助技術 III 看護援助技術 IV			
	7		食生活・嚥下に関する在宅看護技術 排泄に関する在宅看護技術 移動・移送に関する在宅看護技術 清潔に関する在宅看護技術 認知機能のアセスメントと看護					
	8		在宅療養の特徴と医療技術			褥瘡の予防とケア	講義	専門分野 II 成人援助論 II 成人援助論 III 成人援助論 IV 老年援助論 II  統合分野
	9					尿道留置カテーテルの管理		
	14	ストーマの管理とケア 経管栄養 経鼻経管栄養・胃瘻胃管 中心静脈栄養 (HPN) 非侵襲的陽圧換気療法 (NPPV) 在宅人工呼吸療法 (HMV) と排痰法						
	15	終講試験		筆記試験				
	評価方法	筆記試験 (10割) 但し、受験資格は履修規定、9条によるものとする						
	テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 新版 在宅看護論 医歯薬出版						

教育内容	統合分野 在宅看護論	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	在宅援助論Ⅱ	単位 1単位	在宅看護の実際から家族支援・生活支援の必要性を学ぶ		
担当講師	藤原 真由美 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	1 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う				
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	在宅看護技術(疼痛緩和)	在宅における疼痛緩和ケア 疼痛緩和ケアの適応 疼痛緩和ケアを受ける療養者への在宅看護	講義	基礎分野  専門基礎分野 病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅲ
	2 5 7	在宅看護の実際	在宅看護介入時期別の特徴(看取り期) 終末期(がん)の療養者に対する在宅看護の事例展開 ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例展開 COPDの療養者に対する在宅看護の事例展開 独居の療養者に対する在宅看護の事例展開 統合失調症の療養者に対する在宅看護の事例展開	講義	専門分野Ⅰ 看護学概論  専門分野Ⅱ 老年援助論Ⅰ 小児援助論Ⅰ 精神援助論Ⅰ
	8 5 14	在宅看護の実際	在宅看護介入時期別の特徴(在宅療養準備期、移行期 安定期、急性憎悪期、療養終了) 脳卒中を起こした対象の在宅療養導入の事例展開 パーキンソン病の療養者に対する在宅看護の事例展開 認知症の療養者に対する在宅看護の事例展開 小児の療養者に対する在宅看護の事例展開		統合分野
	15	終講試験	筆記試験		
	評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、9条によるものとする			
	テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 新版 在宅看護論 医歯薬出版			

教育内容	統合分野 在宅看護論	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	在宅援助論Ⅲ	単位 1単位	在宅療養者の特徴をふまえて在宅療養者への援助計画を立案し、実施・評価の看護過程を学ぶ			
担当講師	西山 玲子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 15時間				
教育目標	2	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う				
	3	人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
	4	保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目	
	1	在宅看護の看護過程	在宅看護過程の構成要素 情報収集・アセスメント 看護計画立案 看護記録と評価	講義 グループワーク	基礎分野 論理学	
	2		【事例】 パーキンソン病の療養者の生活支援・社会資源の活用と訪問計画、援助の実際	演習	専門基礎分野 社会福祉Ⅰ 社会福祉Ⅱ 病態と治療Ⅲ	
	5				専門分野Ⅰ 看護学概論 共通看護技術Ⅰ	
	7				専門分野Ⅱ 老年援助論Ⅰ	
					統合分野 在宅看護学概論 在宅援助論Ⅰ	
	8	終講試験	筆記試験			
	評価方法	筆記試験(5割) レポート(5割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
	テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 新版 在宅看護論 医歯薬出版				

教育内容	統合分野 看護の統合と実践	時期 3年次	科目のねらい		
授業科目	災害看護	単位 1単位	災害が人々の生命や生活に及ぼす影響を理解し、災害サイクルに応じた看護支援活動および看護の役割について学ぶ		
担当講師	山田 友季子 看護師臨床経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	1	生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う			
	4	保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う			
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1 5 3	災害看護学	災害看護の歩み 災害医療の基礎知識 定義・種類・特徴 災害の定義・災害の種類と健康障害 災害医療の特徴 災害時の情報 災害対応に関わる職種間・組織間連携 災害看護と法律 災害看護の基礎知識 災害看護の定義・役割 災害看護の対象 災害看護の特徴と看護活動 国際救護活動における看護の役割と課題 災害看護教育と研究 災害サイクルに応じた災害看護と展開 急性期・亜急性期 慢性期・復興期 静穏期 被災者特性に応じた災害看護の展開 災害とこころのケア	講義	基礎分野 心理学 専門基礎分野 専門分野 I 看護学概論 専門分野 II 成人援助論 I 統合分野 国際看護
	4 5	人と防災未来センター見学	病院災害と防災対策マネジメント 活動時の課題		
	6 7	災害時に必要な看護技術	災害時の救護活動に必要な看護技術 事例を用いる ① トリアージ ② 応急(救命)処置 ③ 搬送・移送技術 ④ その他	講義 演習	
	8	終講試験	筆記試験		
	評価方法	筆記試験(7割)レポート(3割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする			
	テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 医学書院			

教育内容	統合分野 看護の統合と実践	時期 3年次	科目のねらい		
授業科目	国際看護	単位 1単位	国や文化を超えた人々の健康に関する諸問題について学び、看護の国際組織について学ぶ		
担当講師	森田 佳奈子 臨床経験:3年以上 教育経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	1 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う				
	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う				
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	国際看護の必要性と課題	* 国際看護とは何か？ * グロバリゼーションに伴う国際看護の必要性と、現状と課題  感染症の拡大、社会格差と健康格差 在日外国人 外国人看護師 * 日本と海外での出産を通しての異文化紹介	講義	基礎分野 英語 I 英語 II 文化社会学  専門基礎分野 公衆衛生学
	2	国際保健政策 I	* プライマリ・ヘルスケアとヘルスプロモーション * ミレニアム開発目標 * 人間の安全保障	講義	専門分野 I 看護学概論
	3	国際保健政策 II	* 途上国における健康課題 背景にある社会、文化、伝統、保健医療	講義	専門分野 II
	4	保健医療分野における国際機関と日本の国際協力の現状	* 国際機関の種類と役割 * WHO(世界保健機関)の目的と活動 * 日本のODA(政府開発援助)の形態と活動状況	講義	統合分野
	5	国際協力活動の実際 I	JICAシニア海外ボランティアの活動を通して HIV/エイズに関する状況と文化的背景	講義	
	6	国際協力活動の実際 II	JICA専門家の活動を通して HIV/エイズに関する状況と課題、梅毒について	講義	
	7	ボツワナの国事情とHIV/エイズ問題、シエラレオネの国事情と保健医療問題	* 現地の人たちにとって必要な国際協力とは何かをその国の社会・文化から考える * 異文化コミュニケーションで大切なこと	講義 GW	
	8	終講試験		演習	
8	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 医学書院				

教育内容	統合分野 看護の統合と実践	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	医療安全	単位 1単位	看護医療事故の種類と構造を理解し、事故の危険因子を減らす方法について学ぶ		
担当講師	大内 美穂 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	医療安全を学ぶ意義	ヒューマンエラーとは	講義	基礎分野 情報科学 心理学 人間工学
	2		医療事故の過去の事例から事故の要因 医療安全に関する用語の定義 医療安全の基礎知識 危険予知トレーニング リスクセンスの強化の重要性 ヒヤリハットが発生しやすい看護技術項目 実習中に起こるヒヤリハット事例の具体例	講義 演習	
	3	事故防止の考え方を学ぶ	医療事故と看護業務	講義	専門分野Ⅰ 看護援助技術Ⅰ 看護援助技術Ⅱ 看護援助技術Ⅲ 看護援助技術Ⅳ 看護援助技術Ⅴ
	4		看護事故の構造 看護事故防止の考え方 業務領域を超えて共通する間違いと発生要因 医療安全とコミュニケーション		
	5	組織としての安全管理体制	看護師の労働安全衛生上の事故防止	講義 演習	専門分野Ⅱ 老年看護学概論 老年援助論Ⅰ 小児援助論Ⅲ 精神援助論Ⅱ
	6		インシデント・アクシデント報告 事故事例の分析方法 組織的な安全管理体制の考え方 看護業務に必要な計算方法・事例検討		
	7	医療安全対策の国内外の潮流	わが国の医療安全対策の取り組み	講義	統合分野 在宅看護概論 看護の統合と実践
	8	診療補助業務の事故防止(Ⅰ)	輸注ポンプ・シリンジポンプの構造と機能	講義	
	9		輸注ポンプ・シリンジポンプの自己の実際	演習	
	10	療養上の世話における事故防止	内服と薬業務と事故防止 注射業務と事故防止	講義	
	11		輸血業務と事故防止	講義	
	12	療養上の世話における事故防止	経管栄養注入業務と事故防止 チューブ管理と事故防止	講義	
	13		療養上の世話における事故の捉え方と防止 転倒・転落事故防止 誤嚥・異食事故防止 入浴中の事故防止	講義	
	14	医療関連感染対策	基本的な医療関連感染対策	講義	
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[2] 医療安全 医学書院 新体系看護学全書 統合分野 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/ 医療安全 メヂカルフレンド社				

教育内容	統合分野 看護の統合と実践	時期 3年次	科目のねらい		
授業科目	看護管理・看護倫理	単位 1単位	看護におけるマネージメントについて学ぶ。また医療や看護場面で起こる倫理的な問題について学ぶ		
担当講師	富山 美加 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:7年以上	時間数 30時間			
教育目標	1 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う				
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	看護とマネージメント	看護管理学とは 看護におけるマネージメント	講義	基礎分野 マネージメント論
	2	看護ケアのマネージメント	看護ケアのマネージメントと看護職の機能 患者の権利の尊重	講義	哲学
	3		安全管理 チーム医療	講義	専門基礎分野 保健医療論 社会福祉 I
	4	看護サービスのマネージメント	看護サービスのマネージメント 組織目標達成のマネージメント 看護サービス提供のしくみづくり 人材のマネージメント 施設・設備環境のマネージメント 物品のマネージメント 情報のマネージメント 組織におけるリスクマネージメント サービスの評価	講義	専門分野 I 看護学概論 看護研究
	5	看護を取り巻く諸制度	看護の定義 看護職 医療制度 看護政策と制度 マネージメントを考える 組織マネージメントを考える	講義	専門分野 II 成人援助論 II 小児看護学概論 老年看護学概論 母性看護学概論 精神看護学概論
	6		看護組織をマネージメントする	講義	統合分野 医療安全
	7			演習	在宅看護論
	8	看護の本質と倫理	倫理とは、生命倫理とは、看護倫理とは 看護ケアの構造、ケアとケアリング 看護の倫理原則 アドボカシー ケアリング	講義	
	9		専門職の倫理 倫理的問題へのアプローチ法		
	10	成人期の看護実践と倫理	急性期の看護～移植医療 がん看護～積極的治療・緩和ケア 身体抑制と看護	講義	
	11	老年期期の看護実践と倫理	認知症高齢者の看護と倫理		
	12	母性の看護実践と倫理 小児の看護実践と倫理	母性看護の倫理～遺伝看護と倫理 小児看護における倫理的問題	講義	
	13	精神看護と倫理 在宅看護と倫理	急性期に生じる倫理的問題 在宅看護における倫理的問題	講義	
	14	看護研究と倫理 看護倫理の課題と展望	看護研究の特質と倫理 看護倫理の独自性と確立 看護倫理の教育・研究の課題と展望	講義	
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	看護管理:筆記試験(5割) 看護倫理:筆記試験(3割)、演習(2割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 医学書院 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院				



教育内容	統合分野 看護の統合と実践	時期 3年次	科目のねらい		
授業科目	看護の統合と実践	単位 1単位	これまでの看護実践を通して構築した看護に対する考え方のもとに、看護実践能力の主軸となる看護実践の技術的側面と、看護実践の問題解決的側面の到達度を評価し、看護師としての課題を明確にできる		
担当講師	佐野 和美 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:5年以上	時間数 30時間			
教育目標	1 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う				
	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う				
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
	5 社会の変化の方向性を理解し、看護専門職として自己啓発に励み、生涯にわたり看護を探究し続ける姿勢を持つための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	ガイダンス	看護の統合とは 看護の実践とは	講義 グループワーク	基礎分野 心理学 人間工学
	2	看護実践能力評価と課題の確認	看護実践能力の評価とは 現状と課題	講義 グループワーク	人間関係論 マネジメント論
	3		看護に対する考え方① 看護観とは		文化社会学 哲学
	4		複数患者を受け持つなかでのタイムスケジュール 情報の整理 問題点の明確化		教育学
	5	看護業務遂行のためのマネジメント	看護に対する考え方②	講義 グループワーク	専門基礎分野 解剖生理学Ⅰ～Ⅳ 治療論Ⅲ
	6		複数患者を受け持つなかでのタイムスケジュール 計画立案		専門分野Ⅰ 基礎看護学
	7		複数患者を受け持つなかでのタイムスケジュール 2事例を受け持つ1日(24時間)の タイムスケジュール		専門分野Ⅱ 成人看護学 老年看護学
	8		OSCEに向けての課題の明確化	グループワーク	
	9		実施 技術演習①	演習	統合分野 医療安全
	10		実施 技術演習②	演習	看護管理・看護倫理
	11		シミュレーション演習		
	12		シミュレーション演習を通して自己の現状を把握する 統合実習へ向けての課題の明確化 現状を評価し、今後への課題	グループワーク	
	13		看護に対する考え方③ メタパラダイム	グループワーク	
	14		看護に対する考え方④ (看護実践の問題解決的側面を深め、 看護師としての課題を明確にする)		
15		卒業に向けての課題の明確化 現状を評価し、今後への課題	グループワーク		
評価方法	学習状況(6割) レポート(4割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	新体系看護学全書 統合分野 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/医療安全 メディカルフレンド社 新訂版 実践に生かす看護理論19 サイオ出版				

